

全人的医療基礎講義

責任者・コーディネーター	教養教育センター教務専門委員長 平林香織 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科文学分野、人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	祖父江 憲治 学長、川田 龍平 客員教授、平林 香織 教授、相澤 文恵 准教授		
対象学年	1	区分・時間数	講義 6 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、医学・歯学・薬学を志す学生に共通して求められる人間性を養うために、医歯薬3学部の学生がともに学び、多方面の分野について学修する。誠の医療人を目指す初年次学生として、人格を陶冶するための幅広い教養を身につけるとともに、自分の専門領域をより広い視野で理解するための柔軟な思考力、深い洞察力をはぐくむ。傾聴した内容を整理し自己の考えをまとめるレポートを作成し、論理的な思考力と表現力の向上をはかる。また、「いわて高等教育コンソーシアム」の加盟大学（岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、一関工業高等専門学校、放送大学）に講義動画を配信し、県内で学ぶ学生諸氏に対する教養教育・社会教育の一助とする。

・教育成果（アウトカム）

人文科学・社会科学・自然科学に関連する最先端の知見、医療に関する講義を傾聴し、医療人を志すための自己の立脚点を謙虚に再確認する。誠の医療人として求められる人間性とは何か、そのために自分がどうあるべきか、何をなすべきかということ具体的を考え、それをわかりやすく表現することによって、自分のなかに医療人としてのビジョンを落とし込む。

医療人となるための幅広い教養の必要性、生涯学び続ける姿勢の重要性、他者の話を傾聴しそれを深く理解することのむずかしさ、自分の考えを整理し論理的に表現することの意義に気づく。

（ディプロマ・ポリシー：1,4,5,9,10）

・到達目標（SBO）

- 1.積極的に参加し、講義を傾聴することができる。
- 2.講義の内容を整理し、それに対する自分の意見を論理的に述べるができる。
- 3.誠の医療人に求められる人間性とはどのようなものか、自分の考えを具体的に述べるができる。
- 4.自分がどのような医療人でありたいかを具体的にイメージし、わかりやすく説明することができる。

・講義日程

（矢）大堀記念講堂

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/14	金	4	学長 教務専門委員長	祖父江 憲治 学長 平林 香織 教授	学長特別講義
5/26	金	4	教務専門委員長 附属図書館	平林 香織 教授 司書	男女共同参画講義—図書館企画〈ライブラリー+〉協賛
9/22	金	4	教養教育センター 教務専門委員長	川田 龍平 客員教授 平林 香織 教授	薬害を考える—いのちが守られる社会の実現のために—
10/27	金	4	教務専門委員長 心理学・行動科学分野	平林 香織 教授 相澤 文恵 准教授	【特別講演】 「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」 講師：東京大学大学院人文社会系研究科 会田 薫子 特任准教授 1.生命の価値を長さ以外の新たな観点から考え直すことができる。 2.本人の価値観や生き方を重視した緩和ケアと終末期ケアについて説明できる。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	医療格差	川田龍平	角川書店	2011
推	なぜこの国は被害者を守らないのか	川田龍平	PHP	2013
推	沈みゆく大国アメリカ〈逃げ切れ!日本の医療〉	堤未果	集英社	2015
推	人はなぜ、同じ過ちを繰り返すのか?	佐治晴夫×堤未果	清流出版	2012
参	高齢者ケアと人工栄養を考える—本人・家族のための意思決定プロセスノート	清水哲郎・会田薫子	医学と看護社	2015

参	延命医療と臨床現場—人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学	会田薫子	東京大学出版会	2011
---	---------------------------	------	---------	------

・成績評価方法

<p>1.医学部第1学年：聴講態度とレポートにより評価し、「医療入門」の成績に加味する。 2.歯学部第1学年：聴講態度とレポートにより評価し、「歯科医学概論」の成績に加味する。 3.薬学部第1学年：聴講態度とレポートにより評価し、「薬学入門」の成績に加味する。</p>
--

・特記事項・その他

<p>1.新たな講義が追加開催される場合には、掲示板等で連絡する。 2.附属図書館では特別講義開催時期に企画展を行い、展示コーナーを設置している。事前に講義内容を確認し、展示を閲覧したり関連書籍を借り出したりして、テーマごとの論点を確認し、事前学習とする（30分程度を要する）。また、それらを利用して、問題点を掘り下げる受講後の復習やレポート作成に活用しよう。 3.提出されたレポートを講演者に届けるとともに、科目担当責任者が点検し、その結果について、次の講義の冒頭でコメントする。</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット（エルモ、東芝、他）	1	講義資料の提示
講義	遠隔講義システム（polycom・7000）	1	講義映像の送受信
講義	遠隔講義システム（polycom・6000）	3	講義映像の送受信
講義	遠隔講義システム（polycom・6000）*いわて高等教育コンソーシアム		講義映像の送受信